

彫刻家・早川亜美に関する一考察

宮越敏夫

A study of the sculptor Ami Hayakawa.

Toshio Miyakoshi

1 はじめに

私が初めて、早川亜美氏の名前を知ったのはもう30数年前になる。その頃はまだ健在でおられたが、私の早川氏に対する印象は、巨大な彫刻を作る人、展覧会にはほとんど出さず、県内では唯一、彫刻を生活の糧としている人、という印象であった。特異な彫刻家というイメージであろうか、特異というところで、何となく私の頭の隅に常に存在する人であった。

私は氏の作品にはそれほど良いイメージを、正直持っていなかったといってよい。ところがこんな出来事があった。20年位前であろうか、教え子の短大生と話している折、出身校を聞いたところ、早川氏が作ったあの大きな白鳥がある中学校であった。私が「あの場に、あの大きな白鳥は不釣り合いだね」との言葉を吐いた。彼女は自身の思い出を少し傷つけられたと思ったのか、はっきりと自身の思いを述べた。「私はあの白鳥がとても大きくて、誇りでした」と。私は其の時、おやっと思った。私たち大人は客観的な見方をするが、子供たちは別な見方をしているのではないかと。



早川亜美作「飛翔」赤塚中学校
(像高さ3m、翼の長さ5m)

言うなれば実際の人、顔と体が7頭身位であるが、幼児などは2から3頭身と、顔を大きく描く。それは子供たちは客観的なものさしではなく、心でものを見ているからといえよう。幼児には両親の顔が実際、その位の大きさに見えているのである。中学生を幼児の見方と一緒にするのも何だが、早川さんの像に込めた思いは生徒の方が確かに受け止めているかも知れないと思えた。そのことを改めてもう一度、確認してみたいと思った。

過って、人づてに聞いたところでは、早川氏はブロンズの作品の注文を受け、注文より大きいものを作ってしまったため、利益を出すより、借金を作ってしまったという。又、大きく作った作品をアトリエから出せなくて、アトリエの入り口を壊して出したとか。それほどまでして、大きなものを作ろうとした理由は何か。その辺も早川さんはすでに亡くなっているので、奥様に伺ってみたいと思う。

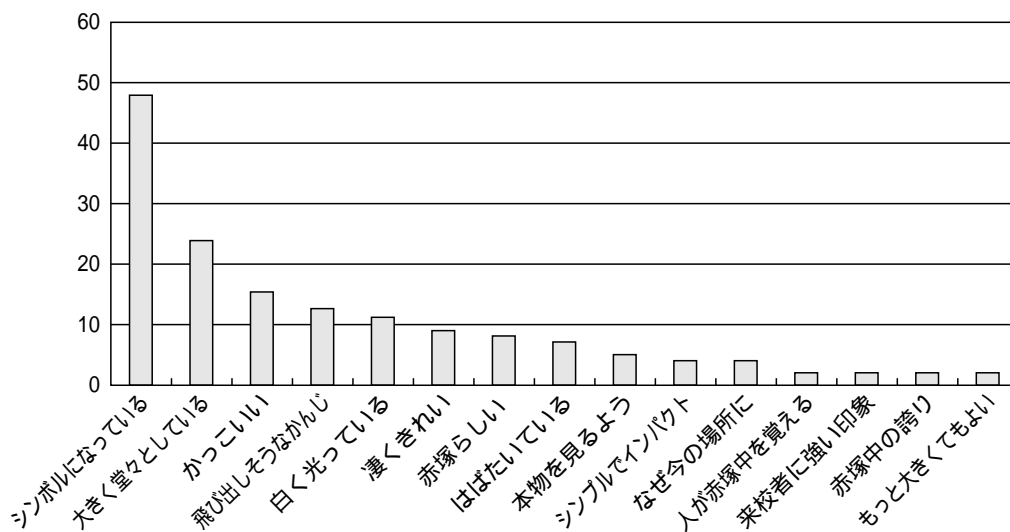
2 調査方法

赤塚中学校に建てられている白鳥の像が生徒達にどのように受け止められているのかを知るために、赤塚中学の本間校長先生にお会いし、約150名の生徒にアンケートをお願いした。先生自ら生徒に話しかけて下さり、アンケートを回収して下さいました。アンケートの質問は「白鳥の像について、好きな点、嫌いな点など、何でも思っていることを書いて下さい。」というものであった。

以下はそれらのアンケートを纏めたものである。

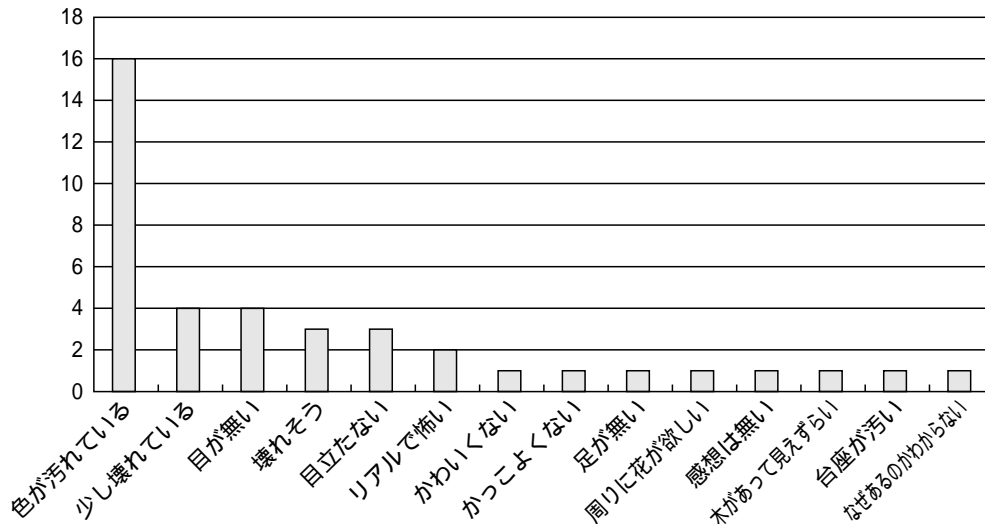
好きな点

シンボルになっている.....48名	もっと大きくても良い..... 2
大きく堂々としている.....24	白鳥のリーダー..... 1
かっこいい.....16	学校を守っている..... 1
飛び出しそうな感じ.....13	卒業してもそのままに..... 1
白く光っている.....11	白鳥の顔が好き..... 1
凄くきれい..... 9	心が癒される..... 1
赤塚らしい..... 8	必要なもの..... 1
はばたいている..... 7	飛翔の題はなぜか..... 1
本物を見るよう..... 5	誰が作ったのか..... 1
シンプルでインパクト..... 4	イメージが強い..... 1
なぜ今の場所に..... 4	どのように作ったのか..... 1
人が赤塚中を覚える..... 2	全体的に好き..... 1
来校者に強い印象..... 2	
赤塚中の誇り..... 2	



嫌いな点

色が汚れている.....	16名	感想は無い.....	1
少し壊れている.....	4	木があって見えづらい.....	1
目が無い.....	4	台座が汚い.....	1
壊れそう.....	3	なぜあるのかわからない.....	1
目立たない.....	3		
リアルで怖い.....	2		
かわいくない.....	1		
かっこよくない.....	1		
足が無い.....	1		
周りに花が欲しい.....	1		



3 結果と考察

生徒達のアンケートの結果からみると、生徒達は中学校に入学した頃、白鳥の像の大きさに驚いたが、何時の間にか、あるのが当たり前になっていたところに、「白鳥の像はあなたにとって、どのようなものか」との問いかけに、ほとんどの生徒達は「学校のシンボル」として再認識しているように思われる。そして自分達が卒業した後も「ずっと残っていて欲しい」と願っている。

作者の早川さんが白鳥の像に込めた思いを生徒達はストレートに受け取っているように思われる。同じ彫刻を手がけている者として、早川さんがこのアンケートを見られたら、どんなに喜ばれるだろうかと想像される。

私の「大きすぎるのでは」との指摘に、大きいことに驚きを感じた生徒は多くても、大きすぎると感じている生徒は全くいないようだ。中にはもっと大きい方が良いと思っている生徒もいた位である。

アンケートの回答の中からいくつか、興味深い言葉について、考えてみたい。ラムサール条約でその環境保護地に登録されている湿地「佐潟」に中学校が隣接しているだけに「赤塚らしい」という言葉があることである。白鳥の像は単なる白鳥ではなく、自然の素晴らしさを考えさせるシンボルとしても生徒たちの心に存在しているようである。そのことを1年生のN・Kさんは次のように書いている。「30年以上も、白鳥の像があったとはびっくりした。大きくて目立つのでイメージが強いと思った。やっぱり佐潟の隣なので、白鳥と関わりがあるのかと思った」と。

又「白鳥の像が人を迎えてくれる」「白鳥が学校を守ってくれる」等、これらの言葉は学校にかける生徒たちの思いを学校に代わって、白鳥の像はその心を受け止めているように思われる。

次に早川氏は「なぜ常に大きい像を作り続けたのか」という私の最初の疑問について考えてみたい。その手がかりになるものを奥様よりお聞きしようと思っていたのであるが、私が調査を始めて、数ヶ月後、奥様は癌で亡くなられてしまった。もう少し早くお聞きしておけばと思ったが、すでに後の祭りであった。ご冥福をお祈りするばかりである。岩室地区公民館から頂いた資料によると、早川氏は若い頃、戦前ではあるが日本の統治下にあった台湾に渡り、意欲的に作品制作に取り組んでいたとある。台湾住民の大部分が中国大陸から移住してきた漢民族であり、台湾の文化基盤は漢文化であると言われていることから、戦前の台湾は中国と同じ大陸的精神風土があったのではないだろうか。そこで中国大陸のもつスケールの大きな制作態度というものを身に付けられたのではないかと思われる。まさに氏の青春の意欲が生涯を通じて、展覧会などには目もくれず、独自の道で大作の制作を続けて来られたのではないかと想像するのである。末尾に早川氏の代表作と思われる観音像と私の制作した羽黒山像を載せた。同じ彫刻家としての観点から今後も早川氏の作品について考えてゆきたいという思いからである。

終わりに赤塚中学の本間校長先生、岩室公民館の伊藤館長のご協力に感謝を申し上げ、終わりしたいと思います。

参考作品



早川亜美作「越後七浦観音」昭和46年作
像高さ、約5 m、台座約3 m



宮越敏夫作「横綱羽黒山像」平成6年作
像高さ、約3 m、台座約2 m

資料（岩室地区公民館提供）

早川亜美 略歴

明治45年 彫刻家早川退一郎「不退」の長男として1月25日、新潟市竜ヶ島に生まれる。

大正13年 豊栄市、上土地亀小学校を卒業

昭和元年 日本美術学校彫塑科に入学、藤井浩治先生に師事、この頃から能面に魅せられる。

昭和6年 同美術学校卒業、番衆塾に入り、藤川勇造先生に師事、制作に励む。

昭和9年 台湾に渡る。

昭和11年 「踊る蕃婦」など続々と作品を発表し、台湾彫塑界に新風を呼ぶ。

台湾美術連盟展彫塑部を興し、全台移動展を年2回開き、この間30余りのブロンズ肖像を作る。

昭和16年 応召、南方戦線に従軍。

昭和22年 ジャバより復員後、新潟市にアトリエを建て、石膏彫刻の制作を始める。以来、彫刻諸会派に属せず、独特の芸道に励む。良寛に惹かれ、良寛像に取り組む。

昭和35年 火焰土器など原始土器の研究と制作に没頭。

昭和38年 新潟国体の聖火台（火焰土器型）を建てる。

昭和43年 間瀬銅山精錬所跡にアトリエを建てる。

昭和45年 間瀬の里、聖地公園を構想し、念願の「越後七浦観音」を建立。

この間、「胎内観音」「みちびきの像」をはじめ、多くの記念像を建てる。

昭和55年 寺泊町「平和の塔」の制作途中、5月23日、病のため死去、68歳、遺志に依り後継、秀二（亜旗）氏に依り、同塔完成す。

早川亜美 主な作品暦

昭和34年 飛躍の鯉 長岡駅東口広場

昭和37年 岡田正平翁像 奥只見・銀山湖畔

昭和38年 新潟国体聖火台 新潟県営陸上競技場

昭和42年 第一回能面展 山下家具店

昭和42年 みちびきの像 県民会館前

昭和43年 平和像 新津秋葉山公園

昭和45年 胎内観音 黒川村胎内

昭和45年 希望と感謝の像 岩室温泉病院

昭和46年 越後七浦観音 間瀬銅山精錬所跡地（現・間瀬夕日パーク広場）

昭和47年 かもしか像 笠堀ダム

昭和47年 第二回能面展 大和デパート

昭和49年 水の精 新川河口排水機場脇

昭和49年 やすらぎの塔 太夫浜霊園

昭和53年 第三回能面展 小林デパート

昭和55年 海山地蔵尊 新川河口付近

その他の業績 木彫りのマリア像 弥勒菩薩像 ドイツ・ヤコブ・フィッシャー美術館収蔵

ヘレン・ケラー像を本人に贈呈 火焰土器をアイゼンハワー大統領に進呈

その他、県内に作品、記念像等多数有り 岩室地区公民館

